

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 1 日現在

機関番号：34509

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380815

研究課題名(和文) 中高年の生活困窮世帯の特徴分析に基づく予防的支援プログラムの開発に関する研究

研究課題名(英文) Development of preventive support program for the middle-aged poverty-stricken through the analysis on their features

研究代表者

西垣 千春 (Nishigaki, Chiharu)

神戸学院大学・総合リハビリテーション学部・教授

研究者番号：40218144

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：大阪で行われている生活困窮者レスキュー事業の経済的支援を受けた中高年生活困窮者を対象に特徴分析を行った。生活困窮の原因としては、病気、失業が多く、さらに失業の原因としては、疾病、倒産、雇止め、介護が主であった。

中高年生活困窮者の特徴としては、男性が多いものの女性も4割を占めていた。女性の約半数は配偶者との離死別者であった。年齢が高いほど、男性では非正規就労、女性では就労困難の割合が高かった。生活保護受給者においても精神を患うもので、生活困窮に陥るものが多く、支援体制構築の難しさが示唆された。

研究成果の概要(英文)： The features of the middle-aged poverty-stricken supported by the rescue program for people with living-hardship in Osaka were analyzed. As the main cause of living-hardship illness and unemployment were deeply related. Disease, bankruptcy, the term limitation of employment and nursing were related with the cause of unemployment.

As for the features of middle-aged poverty-stricken, women accounted for 40% even though the number of men exceeded more than half. Almost half of women were divorced or bereaved. The higher the age, as for men the proportion of "irregular employment" and as for women the proportion of "difficulty to get job" were getting high. Even persons receiving welfare were sometimes suffered from living-hardship when they had the mental disease. This situation suggested the difficulty in constructing a support system for the patients with mental disease.

研究分野：地域保健福祉

キーワード：生活困窮 中高年 失業 疾病

1. 研究開始当初の背景

中高年の休職や失業による生活困窮の実態についてはほとんど明らかにされておらず、ましてや生活困窮にいたるプロセスや予防への視点は十分に検証されていない。特に50歳代での発症が多い「鬱」などの心の病は、休職、失業のみならず、自殺にいたる場合も少なくない。現に自殺者の年齢別人数では2003年以降50歳～64歳が最も多い状況が続いている。治療には長期を要し、医療費のみならず、生計の維持など、本人、家族の生活に与える影響は大きい。もたらされる社会的損失も大きく、その対応は急務であるにも関わらず、いまだ効果的な対策は示されていない

また、近年増え続けている中高年生活困窮世帯の問題は、我が国の労働環境が抱える課題とも密接に関係している。これまでに、労働政策や社会保障分野の研究の中で、日本の社会保障制度が大企業中心に設計されていること、現役世代への雇用政策や再分配政策の規模が極めて小さいことが指摘されている

このことはすなわち、大企業に比べて福利厚生を含む労働環境が整わない中小零細企業では、中高年労働者の雇用問題から派生する生活困窮問題がより深刻な形で進行しているという仮説を導く。本研究でデータベース化を試みようとしている大阪の総合相談の記録からは、中高年期の心の病やその他の病気・けがによる休職や解雇が中小零細企業で目立っており、詳細な分析が求められる。しかしながら、既存研究では、中小零細企業の労働環境を視野に入れた中高年者の生活困窮の実態分析は十分に行われてはいない。

2. 研究の目的

中高年者の生活困窮世帯の特徴を知り、困窮に至った要因を明らかにし、生活困窮を防ぐ対策のあり方を明らかにすることを目的としている。

中高年者の休業や失業による社会的損失の大きさが指摘されながらも、未だ効果的な対策は示されず、困難な状況から抜け出せないまま自殺に至る者が多い現実への対応は急務である。なぜ生活困窮に陥るか、生活困窮に至るものの特性は見いだせるのかを分析検討し、予防的に関わるための視点を見出すことを目指す。本研究の特色は次の3点である。

(1) 社会福祉・公衆衛生・社会政策の観点から複眼的にとらえる学問領域横断的な研究であること

(2) 生活困窮者対策への問題解決型の実践的研究であること

(3) 量的・質的データ双方の分析を組み合わせた研究方法をとっていること

多角的に問題を掘り下げること、対応すべきポイントを整理し、課題解決の方針を示すことを目指す。

3. 研究の方法

本研究では、まず、量的分析から中高年者の生活困窮の要因を明らかにする。具体的には、大阪の総合相談の記録から、中高年者の生活困窮者情報をデータベース化し、統計分析を行う。

(1) 中高年の生活困窮リスクに関していくつかのパターンを見出し、類型化する。

(2) 質的分析から生活困窮リスクの詳細を把握する。

(3) 中高年の生活困窮リスクへの予防介入の在り方を提起する。

そのために、先行支援事例に関する文献調査や関係者ヒアリングを行う。遂行計画としては、1年目は相談記録のデータベース化と分析を実施する。2年目は、対応したワーカーへのインタビュー調査、および、先行する支援事例に関する調査を行う。3年目には、詳細な分析に必要な情報を相談記録から拾い、データへの追加(35歳～64歳、311名)を行い、より詳細な統計分析を行う。これらを通して得られた結果から予防対策への提言と発信を行う。

4. 研究成果

これまでに生活困窮に陥った世帯についての求職や失業理由とその後の生活変化の関連を分析した量的研究は見当たらず、根幹の研究は典型的なパターンを探ることにより、予防的介入の方法を考え出す貴重な結果を提示するものである。あわせて生活困窮者およびワーカーへの聞き取り調査を実施することで量的調査からすくいとれない生活問題の細部についてより深めることができた。

(1) 中高年生活困窮リスク

中高年の生活困窮原因には、病気と失業が大きく影響していた。さらに失業の原因としては、病気、倒産、解雇、介護が主なものであった。就労形態に関わらず、病気占める割合が最も高かった。正規就労の場合は倒産による解雇、非正規就労の場合は雇止めなどのその他が高い割合であった。

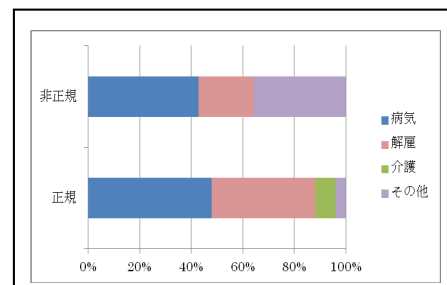


図1 雇用形態別みた失業原因

主な生活困窮原因の事例検討を行った結果、中高年の失業はいくつかの要因と絡み合い生活困窮にいたっていた。失業し、生活が回らなくなったときに必要な情報や少しの手助けがある場合と、活用できるサービスがあ

りながらも自らの力でそこにたどり着けない場合にはのちの生活への意欲や生計の手段も大きく異なることが認められた。さらには医療保険の有無や賃貸住宅では家賃が及ぼす影響も大きいことが認められた。

(2) 中高年生活困窮者の実情 基本属性

男女比は3：2で男性の割合が高いが女性も4割を占めた。ともに年齢の若い中高年者の占める割合が高かった。婚姻状況では、女性で離死別者、男性では、婚姻状況不明者が半数弱と高い割合であった。

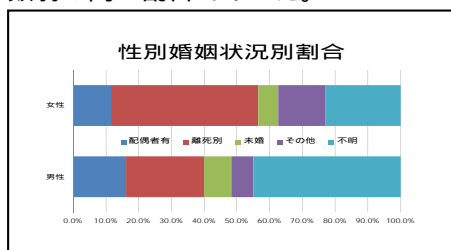


図2 性別婚姻状況

就労状況

男女とも約半数が就労困難な状態にあり、女性において年齢が高いもので、この割合が高く、男性では非正規就労の割合が高い傾向がみられた。就労困難者の約4割は精神疾患を患っていた。

生活保護受給者の特徴

生活保護は最後のセーフティネットであるが、中高年生活困窮者の中には多くの生活保護受給者が含まれていた。生活保護申請中のケースでは精神疾患を患うものが2割であり、受給中のものでは6割を超えていた。

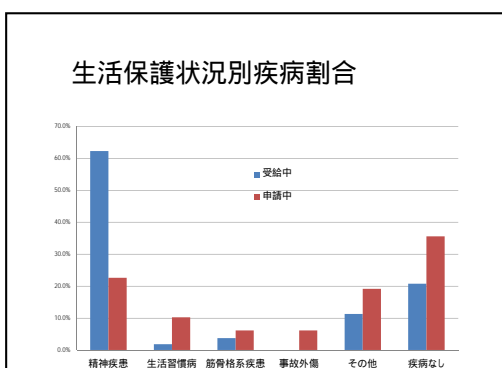


図3 生活保護受給・申請者の疾病別割合

高齢期の生活への影響

高齢者の生活困窮世帯では高齢母子世帯がその半数を占め、女性高齢者の家族との同居率を高める要因としては、低年金や無業の成人子の存在が関連していた。高齢男性は単身者が7割を占めており、低年金が生活困窮をもたらしている可能性が強く、また、離別割合が高く持ち家率が低いという特徴もみられた。家族と同居している高齢男性は収入面、住居面で比較的安定している傾向があるものの、債務を抱えていることが生活困窮の

一要因であることが示唆された。中高年の家族や就労の状況が、高齢期の生活に及ぼす影響が大きいことが考えられた。

(3) 中高年の生活困窮予防のポイント 勤労者への啓発・相談体制の充実

一旦正規就労を離れると、年齢が高くなるほど就労環境は悪くなり、失業が増える。女性の配偶者との離死別、年齢が高い非正規就労者への相談体制の強化が必要である。利用できるサービス情報を必要な時にすぐ入手するためには、ネットワークを持つ人や機関が必要であり、相談内容によって人を拒否しない仕組みが求められる。働く人すべてに情報が伝わる啓蒙・教育が取り入れられることが望まれる。

保健・医療との連携

中高年失業の離職理由は病気が多く、特に長期のフォローを要する精神疾患は、困窮と結びつく大きな要因であるため、医療、生活保健指導との連携が必要である。失業による生活困窮は病気によるものが最も多く、医療費が生活を圧迫する原因になっていた。離職に至る病気では現在患者数270万人いるといわれる糖尿病、死因のトップであるガンなど、治療が長引いたり、手術後のADLの低下が予想されたりするものが多く、病院での公的サービス情報提供や家族状況に応じた保健指導などとの連携の促進も必要である。

生活保護受給者のフォロー体制の充

実

生活保護を受給していても、生活困窮に陥るものは多い。一人暮らしや精神疾患などの困窮へ陥りやすいものの生活変化を把握する体制の充実が必要である。

(4) 今後の研究上課題

今回の研究では、多分野の研究者が同じデータを読み込むことで中高年の生活困窮の原因を広く関連付けながら分析することができた。

しかし、一方で研究手法の限界もみえた。過去の相談記録をデータ化する方法では、完全な記録を得ることが難しい項目もあった。今後は、記録に必要な項目を加え、簡便に情報収集できるような工夫が必要である。

今回の研究成果については、現場で支援にあたる専門職員への還元を機会を設けたが、単発の講義では伝えられることは限られており、今後の継続が必要である。さらに、生活困窮を予防する具体的取り組み計画の策定と評価方法について立案し、効果の検証を行っていかねばならないと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

田宮遊子、高齢期女性の貧困：レスキュー事業利用者からみる生活困窮の実態、個人金融、査読無、1巻、2016、p66-77

[学会発表](計 10件)

1) 西垣千春、中高年の生活困窮、大阪しあわせネットコミュニティソーシャルワーカー研修会、2017年2月3日、大阪薬業会館、大阪府大阪市

2) 田宮遊子、生活困窮者レスキュー事業経済的援助利用者と生活保護受給との関連、大阪しあわせネットコミュニティソーシャルワーカー研修会、2017年2月3日、大阪薬業会館、大阪府大阪市

3) 西垣千春、中高年の失業・生活困窮事例分析報告(招待講演)、大阪しあわせネットコミュニティソーシャルワーカー研修会、2016年12月3日、大阪社会福祉指導センター。大阪府大阪市

4) 西垣千春、中高年失業者の生活困窮の実情と生活支援の課題、社会政策学会、2016年10月16日、同志社大学、京都府京都市

5) 田宮遊子、生活困窮者にとっての社会保障制度利用の障壁、社会政策学会、2016年10月16日、同志社大学、京都府京都市

6) 西垣千春、大都市における高齢者の生活破綻(招待講演)、FPフェア、2016年10月8日、グランフロント大阪、大阪府大阪市

7) 田宮遊子、西垣千春、災害復興公営住宅居住者からみる災害の長期的影響、社会政策学会、2016年6月28日、お茶の水女子大学、東京都文京区

8) 西垣千春、田宮遊子、遠藤きわこ、田中ひろみ、Significance of the social welfare corporation's poverty rescue program : examining the roots of financial distress for the poor in Japan、2016年6月29日、World conference on social work, education and social development、韓国 ソウル

9) 田宮遊子、西垣千春、田中ひろみ、遠藤きわこ、Significance of the social welfare corporation's poverty rescue program : examining the roots of financial distress for the middle-aged unemployed in Japan、2016年6月29日、World conference on social work, education and social development、韓国 ソウル

10) 西垣千春、田宮遊子、中高年の失業と生活困窮の実情についての分析、社会政策学会、2014年10月11日、岡山大学、岡山県岡山市 [図書](計 1件)

西垣千春、中高年生活困窮の危機(仮題)、2018年初旬予定

6. 研究組織

(1)研究代表者

西垣千春 (Nishigaki,

Chiharu)

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部教授

研究者番号：40218144

(2)研究分担者

田宮遊子 (Tamiya, Yuko)
神戸学院大学 経済学部 准教授

研究者番号：90411868

(3)研究協力者

遠藤きわこ (Endo, Kiwako)
お茶の水女子大学 大学院生

田中ひろみ (Tanaka, Hiromi)
同志社大学 大学院生